2020年度 宗教教育記録集『野の花』（27号）

この学園で宗教を学んで

私が初めて宗教を教わったのは、幼稚園、みことばクラスの中でした。園長先生が幼い私たちにもわかるよう、羊のおもちゃなどを使って聖書のお話をしてくださったのを覚えています。聖書のお話を聞いて、行ったこともない場所、会ったこともない異国の人々を想像する、それだけでも幼稚園生の私にとってはわくわくすることで、静かで穏やかなみことばクラスの時間が大好きでした。小学生になり、授業の一つとして宗教を学ぶようになりました。他の公立小学校の友達から「宗教」の授業があることをとても珍しがれました。しかし、「宗教」ってこういう授業なんだよと教えるとき、私は少し誇らしいような気持になりました。理科の授業で、多賀先生が「聖書の中身は科学と矛盾するものがあるけど、今は二つが対立しているわけでもなく、私たちは、どちらも受け入れている」というような話をしてくれたことです。聖書ではこう書いてあるけれど、実際はこうだねとクラスみんなで話しました。いつから宗教の世界と実際の世界の違いを理解し、受け入れるようになったのだろうと思いました。とても不思議に感じました。

私は、人生のほとんどをミッションスクールの生徒として過ごし、高校を卒業して初めて宗教とは無縁に近い環境に身を置くことになります。大学では、微生物の研究をしたいと思っています。科学の分野では宗教は全く役に立たないかのようですが、むしろこの学園で宗教の授業を受け、宗教行事を経験したことは大きな意味をもつと思います。科学でいち早く成果をだすこと、生産性の向上、費用削減のために無視してきた問題が、近年になって本当にそれでいいのかと問いただされるようになってきています。そのような時代に大切なのは、正しい倫理観をもっているかどうかだと思います。教科書で学んだ知識は道具となります。その道具をどう使うかが重要であり、それを判断する価値観の本当に根っこの部分を形作るのが、私の場合は宗教で学んだ様々な教えだと思います。ミッションスクールで学んだことを誇りに今後の人生を生きていきたいと思います。

（佐倉田綺羅さんは、現在、東北大学農学部で学んでいます。）